

	2020年 1月1日 第841号	JR東海労新幹線関西地方本部 http://www.geocities.jp/jrcu_kansai/ 発行責任者 畑野 浩孝 編集責任者 西 三喜夫
--	------------------------	--

自らが先頭で未来を切り開こう！

新年の挨拶

関西地方本部執行委員長 畑野 浩孝

新たな年を迎えるに当たってご挨拶を申し上げます。

関西地本は昨一年間「年休」をキーワードにあらゆる闘いを、職場と第三者機関を活用してつくりだしてきました。「一方的休日出勤反対の闘い」「新人事賃金制度反対の闘い」「災害時における勤務認証をめぐる闘い」そして「平和を希求する闘い」等、労働組合として当たり前前の運動を展開してきました。現実を直視し、こだわりをもって、流されず、あきらめることなく少数組合ではありますが、否定的な現状の中から知恵を出し合って、他労組組合員をはじめとする労働者・市民から共感を得る取り組みを展開してきました。

そしてその闘いのただ中で、寄本智さんと池田裕生さんが JR 東海労に加入されました（東京においては水野さんも）。労働組合としての当たり前前の活動を展開し、日常的な世話役活動を愚直に行ってきた姿勢が2人の加入を決意させてきました。まさに私たちの運動の正当性が証明された成果だと言えます。

また約2年にわたって出向会社を相手に裁判で闘ってこられた多田さんが、完全勝利の和解を勝ち取ることもできました。大谷川さんが私たちの最先頭で闘っている「年休裁判」。組織内だけでなく、他労組・他産別の仲間も支援・連帯に駆けつけて頂いて連帯の輪が広がっています。そして、新たに「年休権共同本人訴訟」に立ちあがった山本さん、今田さん、浦谷さん、柳楽さんと共に勝利に向けた闘いを大きくつくりだしていかなければなりません。

多くの組合員が専任社員として高齢化してくる組織現実の中で、森下君・水野君・松山君をはじめとした若い人たちのためにも、自らが現実に立ち向かい考え方針を打ち出し実践し、それを共有化できる仲間を創りだすこと。間違いは正し、理不尽には立ち向かい。仲間を大切に。遠慮ではなく配慮しながら、前進していく年にしていくことが私たち個々の最重要課題と思っています。

今年は昨年以上においしいお酒が飲めるように奮闘していきたいと思っていますので是非よろしくお願いします。

大阪車両所分会分会長 湊 伸一

今年もよろしく申し上げます。

会社は「安全最優先」を言いながらリニア建設に向けて「さらなる検査周期延伸」など不断に「効率化」を推し進め、今年「新人事賃金制度」で社員間の競争が強いられ「会社の言うことに疑問を持たず黙って従う社員づくり」が仕上げられます。管理者のポストも限りがあり昇格試験に全員が合格するわけではありません。私たちは「働く者の立場はこうだ」ということを今年もそれぞれの職場から訴えていきましょう。

大阪運輸所分会分会長 前田 稔

仲間の皆さん今年も宜しくお願い致します。

昨年、東海労の闘いに共感され、水野さんに続き、寄本さんと池田さんが戦列に加わって頂きました。三名の決断に新たな自信と勇気を持つことができました。本当にありがとうございました。しかし、東海労は少数派です。少数派なりの闘いとは何かを明確にする必要があると思います。多数派であろうが、少数派であろうが、労働運動の原点は職場です。年休裁判と年休権共同本人訴訟の闘いは、裁判所だけに依存するのではなく、職場の課題とどう結合させ闘うかが最重要だと思います。

東海労に恐れた会社は、闘いを破壊する為に不当介入し、同時にユニオン役員は妨害に奔走しています。

今年も、全組合員で【闘いは職場から！】を合言葉とし、更なる組織強化・拡大を目指し共に闘いましょう。

関西地区分会分会長 熊澤 守

新年明けましておめでとうございます。

私たち関西地区分会は、昨年9月5日に旧名古屋車両所分会と旧関西地区分会及びCMCならびに関西新幹線サービックへの出向組合員の総勢21名で新生関西地区分会として結成しました。組合員全員が出向で、20名が専任社員という特殊な分会です。出向会社における組合員の労働条件改善のみならず、そこで働くすべての労働者の環境改善に努めると共に、組合掲示板の獲得、組織拡大に向けて、この一年全組合員一丸となって奮闘してまいります。

本年も宜しく申し上げます。